



瀬戸会館だより  
平成25年8月号  
新居浜市瀬戸会館  
〒792-0821  
新居浜市瀬戸町7-30  
E-mail  
seto@city.niijima.  
ehime.jp  
TEL 0897  
41-5859  
(FAX 兼用)



サークル訪問

**豆拳士たちも元気いっぱい!**

小学生の低学年だろうか、3人の男の子が当館2階に駆け上がって一番乗り。練習開始の午後7時には少し間があるが、3人は窓を開け

てまわる。あとから来たメンバーは部屋に入るなり大きな声で「こんばんは!」とあいさつ。お母さんと一緒に現れた女の子、小さいユニホーム姿もバッチリで、尋ねると5歳、この春から少林寺拳法を始めたとか。

さて、整列。両手を胸の高さに合わせると一斉に「おねがいます!」。原秀作先生の指示でジャンプをしたり腰をおとして左右に足を伸ばしたり……。よく見ると、よつんばいの姿勢だが2本の手は指先が逆方向で手前に向いている。それを少しずつ前後に体ごと動かしている。実に次々と多種多様な動きを入念に、特に難しい姿勢の取り方などは先生が一人ひとり点検、確認して指導される。

やがて休憩に入る。各自持参の飲み物をゴクリゴクリ。付き添いの保護者とは目と目で会話。この日7月17日(水)は20人を超える少年少女たちがここで技を鍛えている。腰にはそれぞれ白、黄、緑、茶、黒などの帯を締めていて階級がわかる。

先生の合図で練習再開。見ていると片足ずつ前に蹴り上げるのだが、その蹴り上げ方に幾種類もあることに驚く。防具のミットめがけて蹴る動作も単純ではなさそう。先生の指示がとぶ。練習の終盤、大人の指導者7人が横一列に並んで構えると、子どもたちは順次「乱取り」ふう元気よくチャレンジする。ところどころで「声を出して!」と指導が入る。付き添いの人たちがやさしく見守るなか、会場には気持ちのよい緊張感が流れていた。

**人々の絆を感じた、隣保館職員先進地研修**

2泊3日の隣保館職員先進地研修は、兵庫県姫路市と龍野市、それぞれ地域の原資を使っての町おこしを行い、地域の絆を深めている隣保館を訪問した。

1日目は、地域のある古墳群を活用した事業を展開している姫路市見野総合センターで、平成19年リニューアルオープンしたコミュニティセンターである。隣保館としていつまでも同じことをやっているのかと疑問を感じ始めて取り組んだのが今の姿であるという。

2日目は、これまで部落の生活を支えてきた皮革産業地である龍野市立総合隣保館で、地区内にあるエルヴェ化成の工場見学も組み込まれていた。実際の原皮から加工までに至るには数多くの工程があることも知った。ここには幅広い年齢の人たちが働いていた。これまで苦難を乗り越え、今日まで築きあげた部落産業の歴史に、地域の皆さんが誇りを持って取り組まれている様子に羨ましくも感じた。そして、この原資で人々の絆を深めていることを隣保館での研修で聞き、感銘を受けた。

最終日は国立療養所長島愛生園。ここは国が最初に建てた施設と聞かされた。ハンセン病とそれを取り巻く問題について研修を受けた。差別に出会ったときやおかしいと思ったときは、しっかりと、目や耳をふさぐことなく自分の意見を言えるように研修を重ねていこうと思った。2泊3日の研修が1日短く感じるほどの充実した研修会であった。



**愛媛県人権教育協議会新居浜支部総会開く**

平成25年度の標記の会が7月4日(木)新居浜市の防災センターで開かれた。石川勝行支部長の開会あいさつの後、今西光昭泉川公民館館長(社会教育部会)被表彰者代表等13人が人権教育功労者として感謝状を贈呈された。

次いで議事に移り、平成24年度の事業報告及び決算報告・監査報告があり承認された。平成25年度の人権・同和教育の基本方針や各専門部会の活動計画、予算案が提案され、審議の結果それぞれ承認された。

皆様のご来館をお待ちしています。

**第6回 であい展**

8月11日(日)~16日(金)開催  
9:00~17:00

瀬戸・寿夏まつり16日(金)19:00~



**8月公演回転木馬おはなし会**

8月30日予定 10:00~11:00  
泉川小学校放課後児童クラブ



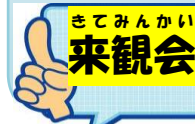
**8月の主な行事予定**

14・28日(水) — 移動図書館

11日(日) — 人権のつどい日

講演「すこやかな子どもを育てるために」

講師 石田 ヒサ子 時間 10:00~12:00



15日(木) 相談室  
(19:00~21:00)

## 人権あらかると

### 前門の虎、後門の狼

宇久照子（当時16歳）

ヒューヒューという音がして砂地の砂が飛ぶので驚いて見ると、友軍（日本軍）の兵隊が小銃を撃っていたのです。民間人がゴソゴソするので自分たちが見つかるのを恐れて、米兵にではなく同じ日本人めがけて撃っていたのです。その弾が父の顔をかすめてけがをしました。姿は隠れて見えなかったのですが、後ろの方で「こら、おまえたち出て行け」と日本兵が叫んでいたが、私たちにいつているのかほかの人にいつているのか、わからなかった。すると近くで赤ちゃんの泣き声が出て、そこにも日本兵の弾が撃ち込まれ殺されました。

この海岸あたりに来てから、こうして日本兵によって民間人が殺される場面を、一度ならず見ました。

アメリカ兵は日本兵に対して撃ってくるのであって、民間人と分かれば撃たなかったものですから、無差別に撃ってくる友軍（日本軍）の兵隊の方が、アメリカ兵よりも怖い存在でした。

アメリカ軍は海からこちらに向かってパンパンと機銃掃射してくるし、こちら日本兵に小銃でいつやられるかわからない、という両方からの圧迫感に堪えられずに、アダンの茂みから砂場に出ました。もうやられるならやられてもいいという、覚悟ができたので。

この場所では“捕虜”になる一週間前に、日本兵が同じ日本兵に殺されるのを見ました。

「沖縄住民証言集『人間でなくなる日』」（集英社）より



## 第60回四国地区人権教育研究大会開く

標記の会が7月11日(木)12日(金)の両日、香川県高松市で開かれた。初日の開会行事と全体会はアルファあなぶきホールで行われ、香川県人権・同和教育研究協議会事務局丸尾徳さんが基調報告。その中で丸尾さんは人権問題の現状と課題を取り上げ、さらに「事実の背景にあるものを見つめる」など5つの視点を提起された。

このあと、就学前教育、学校教育、社会教育などにかかわる6つの分科会で、四国四県より合計47本の実践報告が寄せられ、熱心に討議された。第1分科会のE分散会では今治市立伯方中学校の濱田洋輔さんが「体験をどうして学ぶ」と題して報告。同校では大島青松園でハンセン病問題を、地図から消された島—太平洋戦争中に毒ガスを製造していた大久野島をフィールドワーク、毒ガス資料館の見学を通して学んだという。「共通しているのは、どちらも隠そうとしている」の言葉は重い。

2日目の第4分科会では西条市河北会館の瀬尾孝さんが「字が書けるようになったよ」と題して、知的障がいのある人を対象とした同館の識字学級の様子を報告。会場での質問に対して支援者の一人が「教育の原点を識字学級に見ています」と静かに語る。最後に学級生の皆さんがステージで手話つきの歌を合唱すると、会場は大きな拍手で包まれた。

来年は愛媛で開催する予定。

## 楽しかった！「夕すずみ会」

7月14日(日)はお隣瀬戸児童館の「夕すずみ会」。会が始まり館長さんのあいさつの時、空は上天気なのに大粒の雨がポツリポツリと意地悪をした。18時前には、もういっぱいの人。スピーカーからは「小さいお子さんの手を離さないよう、目を離さないようお願いしま〜す」と先生の声。会場では男の子も女の子も、鮮やかな色のゆかた姿が目に入る。

門をに入って左側の長い列は当日券を買い求める人。右側には多くのテントが並び、わらびもちやアイスクリーム、かき氷などを売っている。テントの軒にはフランクフルト、イカ串など売り場を示す大きな紙が貼ってあるが、その並びに「ゴミはもってかえてね」というのがところどころ顔を出す。また、「おみくじ」のテント前には2列で長い人が待つ。そして出てくる人の表情もいろいろ。どのテントにも商業高校、南高校、高専などの学生の皆さん、それに地域活動クラブや一般ボランティアの皆さんがいて、汗をふきふき大忙し。子どもたちが口元から吹き出すたくさんのシャボン玉、きれいな夕陽に映えて、色を変えながら風に飛ばされていく。やがて大太鼓が鳴りだして、盆踊りが始まる。ステージの上では先生が二人、お手本の踊り。それを取り囲んで子どもたちも続く。曲は愉快的な「秘伝ラーメン体操」が流れている。各テントにぶら下がる提灯が鮮やかに見えはじめる頃、待ちに待った花火が打ちあがる。「ドーン」と大きな音のあと一瞬の間があって、子どもたちの歓声がどっとあがる。気がつくと、手をつなぐ家族の姿がシルエットで見えてきた。

### ☆インターネット初心者講座☆ 第7期生募集

インターネットを利用して、電子メール、音声通話、ブログや旅先の情報収集に宿泊予約、ショッピングなどの情報有効活用術と個人情報漏えい・攻撃・侵入・詐欺等を防ぐセキュリティを学習する講座です。【全24回】

※文字入力とマウス操作の出来る方。

(初心者の方は、事前講習いたします。)

【日時】 9月17日(火) 14時~15時30分 スタート!  
毎週火曜日 同時刻 全24回コース

【場所】 瀬戸会館

【会費】 2,500円 (テキスト・材料費別途500円)